

第1回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1 日時

令和3年7月14日(水) 午前11時 開会 午後12時30分 閉会

2 場所

岡崎市役所 西庁舎5階 501号室

3 委員

出席者 江原亮、梶田美香、柏木典子、榊原悟、柴田桂、
柴田剛太郎、団野美由紀、仲村悠希、渡辺傳次郎、

欠席者 なし

4 事務局

社会文化部 部長 手嶋俊明、次長 豊田康介
文化振興課 係長 亀井実、事務員 羽立珠李
生涯学習課 課長 松田与一
美術博物館 館長 鈴木智子
教育委員会社会教育課 副課長 柴田英代

5 傍聴人

なし

6 議題

(1) 計画改定にあたっての視点について(協議)

(2) 進捗状況について(協議)

7 議題要旨

議題(1) 計画改定にあたっての視点について(協議)

委員長 それでは、議題(1)計画の改定にあたっての視点について、ご意見をいただきたいと思えます。

事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料1について説明)

委員 全国的に障がい者のアートというものが広がりつつあり、見る方にも

関心が広まっているように感じます。私自身が実感していることとして、障がい者のアーティストの発掘が十分に行えていないように思います。家で創作活動をしている人などの人材発掘は難しいので、発掘するところから始めていく必要があります。そういったことを通じて、美術館での展示などを行っていくと良いと思います。福祉という視点よりも、芸術という視点から展示という形に持っていけると良いです。

委員 文化芸術による社会の活力の創出については、ぜひしっかりと進めていただきたい内容です。

委員 文化芸術活動の推進や活性化を行っていくとの記載がありますが、これだけでは具体的なものが見えてきません。市が現在どういった活動を行っているのか、今後どうしていくのかということが知りたいです。

事務局 資料1に示した視点というものは、計画の中間見直しにおける方向性を示したものとなっていますので、具体的な施策や取組の記載はしていません。

委員 新型コロナウイルス感染症への対応は、昨年度から始まっていることだと思います。昨年度の状況を踏まえて、具体的な行動などについてお考えがあればお聞きしたいです。

事務局 文化芸術活動の再開に向けて支援をしていくため、市の文化施設を半額で利用できるよう、期間を限定して取組を進めてきました。取組として行ったものの、新型コロナウイルス感染症の更なる拡大といったこともあり、なかなか効果が得られませんでした。

アンケート調査を実施した結果においても、活動の場がないということが課題として挙げられています。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、活動を再開できるような支援、活動を後押しできるような取組を行っていければと考えています。

新型コロナウイルス感染症の中でも、学芸員等が色々な工夫を行いながら、企画提案をしています。ジャズに関しては、観客は入れずにオンライン配信をするなど、市と協働して取組を進めています。

現時点では、試行錯誤しながらやっているという状況ですので、全体としてどのように方向づけていくかということ、今回の中間見直しにおいて具体的にしていければと思います。

委員 視点(3)障がい者による文化芸術活動の推進というように、視点が絞られ過ぎている点が少し気になりました。

あいち文化振興計画 2022 の基本目標2では、「県民が等しく…」と記載があり、ここに障がい者の方の文化芸術活動というものも含まれ

てくるように思います。

「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」ができたとはいえ、全体的な視点の方が良いと思います。

あいちトリエンナーレは、名称を変えて国際芸術祭「あいち 2022」となりますが、次回岡崎市は会場となりません。会場にはならないけれども、これまでのように視点は大事にし、忘れていないというような記載が盛り込まれていると良いと感じました。

委員

ジャズに関して、今後どのように広げていくか、どういった内容を扱っていかうかということを考えています。新しいことも生まれていっている中で、色々な音楽文化が加わっていくようなまちにしていけると良いです。音楽が聴きたければ、この通りに行けば良いと言えるような通りをつくれると良いです。

コロナウイルス感染症に関しても、当分の間は続くかと思えます。対応していきながら、進めていくことが必要だと思います。

障がい者の方も含めた発表の場というものも必要であると感じます。そういったことも取り入れた活動というものを、明確に出していけると良いと思います。

委員

文化芸術と様々な分野を結びつけた形での取組は、全国的にも推進されてきていることであると思えます。岡崎市としては、観光やまちづくりなどというように強調して書かれていますが、それ以外のことも考えられます。

新型コロナウイルス感染症に対応していくという視点は、必要なことだと思います。市民活動・団体への助成ということに関しては、進捗状況があまり良くないものとなっています。現状を踏まえた上での助成制度が必要であると思えますし、コロナウイルス感染症の終息後も充実した助成制度を行えると良いと思えます。

障がい者の方が創造する、表現するということもありますが、鑑賞するということに対するアクセシビリティへの対応といった部分も重要であると思えます。障がい者の方が、他の方たちと一緒に楽しむことができるというサービスが生まれてきていますので、そういったことも盛り込んでいけると良いかと思えます。

委員

文化協会における動向として、会員数がここ 10 年で 45%減っている状況です。高齢化ということもあり、伝統芸能などに関しては後継者不足です。秋に予定している芸能祭では、参加団体を募集したところ 20 団体が集まっています。コロナウイルス感染症のことも踏まえながら、今後どのようにバックアップしていくのかを考えていくことが重要で

す。

文化協会としては、市民会館に色々な団体を集めて何かを行いたい、文化芸術を盛り上げていきたいと考えていたのですが、コロナウイルス感染症の影響もあり頓挫してしまいました。色々なことを行うにあたって、予算や団体の参加などに関する問題があり、文化協会だけでは難しい部分があります。活力の創出にあたって、実際に行っていく際に色々な課題が出てきます。その辺の内容を盛り込んでいかなければならないと感じています。

委員長

視点(1)に記載のある「まちづくり」は、とても魅力のあるものだと思います。岡崎市のまちをつくっていくという自覚が必要です。

4、5月には、籠田公園で日曜日に演奏会を開催したり、フラダンスを踊っていたりと、朝から晩まで1日舞台を使って公演を行っていました。そういった姿を見た時に、みんな求めている、まちをつくりたいと思っているのだなと感じました。

様々なことを地元の人たちが行っています。まちの人たちが、自分たちで盛り上げようとしているのを感じ、そういったことを求めているのだなと思います。コロナウイルス感染症の終息とともに、良いアイデアが浮かんでくると思います。その時には、市と一緒に進めていき、やりたいことができるという環境が大事であるように感じます。

委員

視点について、記載されていること自体は悪くはないと思います。日々感じていることとして、岡崎市には文化芸術の種がたくさんあるように思います。しかし、宣伝やPRをうまく行えていないように感じます。先ほどのお話にもあったように、籠田公園の前を通過して、イベントを行っていることに気づくことも多いです。市民にうまく伝わっていないように感じます。

お寺を回る機会がありましたが、あまり整備されていないという印象でした。しかし、1つ1つは素晴らしいものが残っていると思います。また、県外から来た人にどこに行きたいか尋ねたところ、南公園と言っていました。東海オンエアの看板があるので、写真を撮りたいということでした。こういった県外からの人たちも利用して、多くの文化を発信していくことができると思いますが、示していただいた視点では、どこに当てはまるのかがわかりませんでした。情報発信や広報などがうまくいけば、注目されるまちになっていくように思います。

また、伝統芸能などが受け継がれていくことが重要であるようにも感じます。そういったことの宣伝についてもうまく行えていないので、今後盛り込んでいく必要があるように思います。

委員長 いただいた意見を参考に、事務局で再度ご検討いただければと思います。

議題(2) 進捗状況について(協議)

委員長 続いて、議題(2)進捗状況について、ご意見をいただきたいと思います。

事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料2について説明)

委員 計画策定時にも申し上げましたが、カタカナ表記が多いと思います。例えば、「インキュベーション」です。この記載だけではわかりません。最低限、脚注を付けるなどしてほしいです。市民がこれを読んでわかるようなものにしてほしいです。カタカナ表記を使うのであれば、英語でのつづりを記載するなどしておけば、辞書で調べることもできます。

未着手・未実施の評価が付いているものですが、あつてはならない、反省すべきことであると思います。例えば、「若手芸術家の滞在型制作の場の創設」とありますが、現実的ではない取組だと思います。若手芸術家を滞在型で育成しようと思うと、手間・暇・お金がかかります。市でこれを行っていくのは難しいことであると思います。実際に、この事業を行うにあたって、市で努力はしましたか。進めていくとなると、担当の職員が付いたり、その後のことも考えたりした上で取り組んでいくべきことであると思います。

委員 達成度の評価というものは、どういった形で出されたものでしょうか。

事務局 担当課による自己評価となっています。

委員 自己評価を行う上での観点などは、統一されているのでしょうか。また、他課との連携などはどうなっているのでしょうか。

先ほどおっしゃられていたように、カタカナ表記に関することは気になりました。

事務局 参考資料としてお配りした表がありますが、各年度の達成度から取組全体の達成度を出し、整理をしています。各課の方で、事業の達成度を自己評価してもらうという形を取っています。

委員 未着手・未実施の評価が付いている「文化的な国際交流等を行う団体との連携」ということに関しては、他課との連携がなければ進まないことであるように思います。

今回の評価は、連携している課との話し合いの末の評価であるのか、そうではないのかという辺りはどうなっていますでしょうか。

事務局 他課とは、相互にやり取りを行った上で進捗状況の把握を進めています。

委員 内容の充実が必要であるのか、他課との連携が必要であるのかという違いがあると思います。

この5年間において、他課との連携がどのように進められてきたのかということについても、見直しの観点になるように感じました。

委員 「市民活動団体への助成制度の充実」とありますが、これは文化に関連する団体ではないものも含まれている事業だと思います。文化活動を行う団体への助成というようにして、明記した方が良いと思います。

事務局 この事業における市民活動団体というものは、公益性のある活動を行っている団体ということで、530 団体ほどあります。文化芸術活動を行っている団体の登録もあります。それ以外にも、子育てやまちづくりなど、多種多様な団体が登録をされています。

今回お示ししている評価としては、特に文化芸術活動を行っている団体に対して、助成制度の充実を図ることができたかどうかということで評価をしています。

委員 「文化とまちをつなぐ仕組みづくり」の事業では、文化芸術活動への助成金等による活動支援とありますが、これは先ほどの助成制度とは違うものですか。

事務局 違うものになります。公募型の事業に対する助成金を想定したものになります。

事務局 現時点では、文化芸術活動に特化した助成制度というものはありません。文化芸術活動も含めた市民活動団体への助成については、登録されている団体に対する公募型の助成制度はあります。

文化芸術活動に特化した助成制度というものについて、今後どういった形で行っていくかを検討し、見直しを図っていきたいと思います。

事務局 未着手・未実施の評価のものについて、ここまでやれていないものなので項目としてなくしてしまうということも考えられます。もしくは、考え方としては残しておかないと、今後築いていくこともできないのではないかという考えもあります。

委員 項目として残すのであれば、市としてどういったことを行うのかを考えていただかないと困ります。

委員 実施したが、あまり目的・意図が達成されず、成果が小さかったも

のや、未着手・未実施となっているものは、似たような取組ではないか
と思います。また、この5年間でほとんど取り組めていないということも
言えるように思います。

1つ1つの事業として立てるのではなく、いくつかの事業を組み合
わせることで、少しずつ実現できることもあると思います。

委員 岡崎市に住む定住外国人の方がとても多いと感じました。市の方
に、国際交流などで何かやっていることはないかという質問をしたと
ころ、あまり積極的な活動がされていないように感じました。海外の方が
多くいらして、学ぶ環境があるけれども活かされていないように思いま
した。

今ある環境はとても魅力的なことだと思いますが、「国内外の都市と
の文化交流」に関しては、事業の評価を見ても課題となっている部分
なので、今後力を入れていくべきことであるように思います。

委員 美術博物館では、森さんという方から浮世絵を預かっていました。
森さんが亡くなられてから、浮世絵については購入をしました。

森さんの自宅は、幕末から明治くらいのものであると聞いていま
した。自宅について、市で購入するという話も出ていたとお聞きしまし
たが、最終的には市で購入はせずに現在は更地になっています。

こういった古いものは、活用できるかどうかということではなく、保存
をして、どうしたら活用ができるのかということを考えていかなければな
りません。

他にもこういったことがあるように思います。文化財に指定するとい
うことまでには至らないとしても、文化財の保存と活用を行っていくと
いうことが重要となります。

委員 会議については、市民への公開は行っていないのでしょうか。

事務局 会議等における市民への公開は行っており、傍聴も募集をしてい
ます。今回の会議では、傍聴者が0名となっていました。会議冒頭
にお伝えしていませんでした。

事務局 以上をもちまして、第1回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委
員会を終了させていただきます。

午後 12 時 30 分 閉会